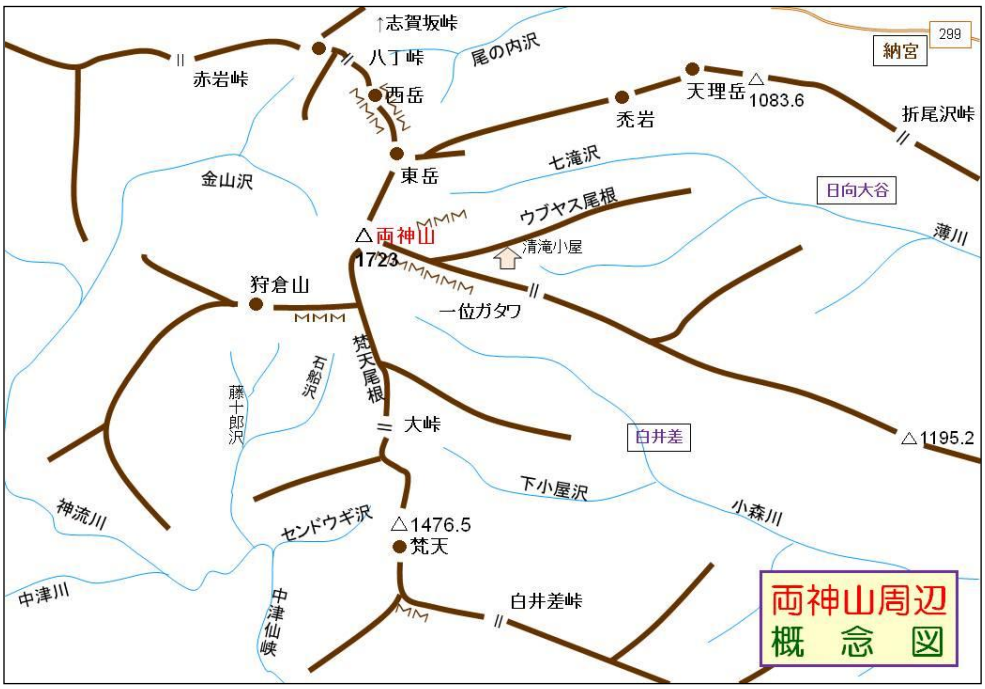
踏　み　跡　＜My　Mountains＞

奥秩父	日向大谷から両神山	No.199

秩父の両神山は鋸歯型の岩峰が特徴で、色々な山からの遠望で確認しやすい。それゆえに、多くの人が一度行ってみたい山と言うことが多い。両神山という山名の由来は、イザナギ・イザナミ両神を祭っているという説と、日本武尊が東征の折に八日間にわたってこの山を見ながら歩いたことから八日見山となったという説などがあるらしい。いずれにせよ、いくつかの登山口に里宮があり、山に登ると奥宮がある、「神との関わりの深い山」と言う感じはする。



首都圏から比較的近い距離にあるわりに交通の便があまり良いとは言えず、往路と復路に時間を要するので、両神山登山はなかなか実現しなかったが、ついにその日が来た。
初日に山麓まで入り一泊、二日目に頂上を往復して帰るという二日の行程を考えたが、雨で初日を失ってしまったため、急遽早朝出発の日帰り登山に変更することになった。

昭和５９年１１月２４日
3 時半に目ざまし時計で起床、軽い朝食をとり 4 時 10 分に自宅を出発。千葉は曇り空。
途中で食糧を購入して、穴川インターから京葉道路に入り首都高速へ。一旦環状八号線に下りた後関越自動車道へ。花園インターで下りて国道 140 号線へ、秩父で国道 299 号線に入り志賀坂峠越えの道へ。
家を出る時には曇り空だったが、秩父に入ってからは快晴になり、すかっとした秋らしい青空。
国道の先に見える両神山が徐々に近づいてくるのがうれしい。

（右写真：両神山遠望）

小鹿野から薄川沿いの県道に入り、どん詰まりの日向大谷（ひなたおおや）に 7 時 50 分に到着。ここは両神神社の里宮がある所。（ここまで走行距離＝184.9Ｋｍ）
朝食（パンとお茶）をとりながら登山の身支度を済ませて、8 時 30 分に出発。
きれいな流れがある沢沿いの登りで始まり、清滝小屋に 10 時 10 分着。山小屋はすでに冬期の休業に入っているらしく、数人の登山客の他は人の気配がない。足元には雪、小屋の後ろは見上げるような高さの両神山の懐。小さな沢の瀬音に耳を傾けながらみかんとお茶で小休止。10 時 25 分山頂を目指して出発。
両神山 11 時 15 分。海抜 1723m、どこの山からも良く見えた特徴的な両神山だけにさすがと言いたくなるような眺めが広がる。
間近な所に秩父の盆地と武甲山、そして雲取から三峰方面の稜線、雲取から飛龍・笠取・甲武信と連なる奥秩父の主稜線、八ケ岳、浅間山、草津白根・・・・、おまけに関東平野まで一望できる。
驚きはまだあった、雁坂峠の向こう側に富士山が顔を出している。この景色をおかずに昼食の寿司弁当とソーセージを食べ、デザートのみかんを贅沢に二個も食べて、最後の締めは恒例の山頂での昼寝。
12 時 30 分に頂上を出発して下山開始。

踏　み　跡　＜My　Mountains＞

＜両神山山頂から奥秩父の主稜線を望む＞

富士山↑

一位ガタワ 13 時 11 分、今年の紅葉の見納めを楽しみながら日向大谷に向かった。（右写真）
日向大谷 14 時 37 分着。お茶とみかんで喉を潤して 15 時出発。
途中で自動販売機のコーヒーを飲んだり、道路渋滞に備えて天ぷらうどんを食べたり、車を止めて山並に見入ったりとのんびりしたドライブをしながら帰宅した。途中の道路は思いのほかスムーズで、自宅帰着は 20 時だった。（走行距離＝370Ｋｍ）
登山を始めたばかりの頃以来、登った山の頂から遠くに見えた風変わりな山頂をした両神山。いつかは登ってみたいと思い続けていた山、まさに「宿願を果たした！！」というのが率直な印象の山行だった。

以上